



採用校に
聞きました！

デジタル教科書導入・活用

東奔西走記 Vol.9

鳳凰高等学校 看護学科統括部長 大江 伸吾



鹿児島県の鳳凰高等学校の大江と申します。デジタル看護教科書®の採用校という立場から、今回は導入前に行った教員の研修等についてご紹介します。

操作に慣れるための導入準備・実際の授業①

まずは、タブレット操作に慣れてもらうため、生徒へ導入の1年前に教員用タブレットを導入しました。以前にも紹介しましたが、当初はミラーリングやAirDropなどの用語の連続に悪戦苦闘の日々が続きました。タブレットに慣れるには、実際に端末に触れて操作していただくしかないのですが、デジタル教科書の導入準備は、従来の紙の教科書での授業との併行になるので、なかなか進みませんでした。

そこで、操作に慣れている先生方を中心に模擬授業を計画し、授業のどの場面でデジタル教科書のどの機能を使えば生徒に伝わりやすいのかを試行錯誤しました。特に、生徒の視界・視点という部分に重点を置き、先生方には生徒目線で授業を受けていただき、感じた点を意見してもらっては授業の修正を繰り返しました。そして、ある程度模擬授業が形になったと

ころで、教員全員に教壇に立ってもらい、操作を覚えていただきました。もちろん、初めはなかなか上手いかない先生方のほうが多く、何度も同じような研修を企画し、徐々に浸透していったのが実際です。それでも、1学期が終了する頃にはある程度タブレットを扱う技術が浸透しましたので、2学期以降の自身の授業や演習でタブレットを活用していただくことを課し、夏季休業期間中にその準備を進めていただきました。またその間、本校の情報科教員に協力をいただき、動画・画像処理の方法や、タブレットでのプレゼンテーションアプリの操作方法などの研修も企画し、それぞれの活用方法を模索していただきました。さらに、併設の普通科ではICTに関するさまざまな取り組みを既実践していたことから、普通科への授業見学や研究授業などに参加された先生方もいらっしゃいました。

操作に慣れるための導入準備・実際の授業②

2学期になると、各先生方の授業の中でタブレットが活躍するようになりました。授業のすべてをデジタル教科書で行う先生方もいれ

ば、従来の紙の教科書と、デジタル教科書内の動画視聴などの両方を活用する先生方もいました。演習では生徒の手技などを録画し、それを再生しながら間違いを指摘するような取り組みを行ったり、中には先生同士で事例を再現し、医療ドラマさながらの動画を作成したり、生徒から非常に人気の授業も生まれました。

デジタル教科書を導入してから今年で3年目となりますが、今では先生方全員が自信を持って教壇に立ち、工夫された授業が行われており、見学に来られる学校も多いです。新しいものの導入には大変な労力が必要でしたが、先生方の理解と協力に感謝しています。このように、本校の場合はデジタル教科書の導入前にかかなりの時間を使って準備を整えましたが、学校の事情もそれぞれ異なりますし、先生方の知識・技術によっては短期間で準備ができる学校もあると思います。ただ、ICTに限らず紙の教科書を使用した授業であっても、我々教員の自己満足や価値観の押しつけになってはそ

の効果も減退するものと思います。特に、動画などの活用は視覚的な観点では紙媒体よりはるかにインパクトがありますが、知識の定着という観点ではそれだけでは十分でないとも言われます。つまり、時代の流れに合わせてことだけを目的にICTを導入するのではなく、それをいかに効果的に活用するかが重要だという姿勢を、教員間で共有することが必要だと感じています。



よりお役に立つ内容にしていくため、ご意見・ご感想がございましたらご自由にご記入いただき、FAXにてご送信ください

FAX:06-6398-5081 ⚠ FAX番号のおかけ間違いにご注意ください

お問い合わせ

MC 株式会社 **メディカ出版** 基礎教育営業課
〒532-8588 大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル16F

TEL : 06-6398-5039
Mail : info-dng@medica.co.jp